

令和 5年 6月 5日

柴田町議会の議会基本条例の検証作業に対する議会アドバイザーによる第三者評価

柴田町議会 議会アドバイザー

青森大学 社会学部 教授 佐藤 淳

《評価の手法について》

- ◇ 議会基本条例の第27条に基づき、2年毎に条例の目的が達成されているか評価検証を行い、次の2年間にに向けた行動計画を策定し、議会改革のPDCAサイクルを回していることは評価出来る。
- ◇ 前回までは、議員個人の評価の結果を、議会運営委員会で議論をして、議会の評価にまとめていたため、議員全員で議論する場面がなかった。今回は、個人の評価の前に、全員によるワールドカフェで、議会の現状、ありたい姿に関して、対話で共通認識を持つ場を設け、一部検証のプロセスに改善の工夫があった。
- ◇ これまで実施している議会基本条例の条文毎の評価は、条例の運用に関する評価であり、条例の範囲内での評価となっている。結果として、実施した、実施しない、に焦点が当たってしまう。柴田町議会の場合、実施している項目がほとんどなため、A（達成された：7割以上）もしくは、B（一部達成された：5割程度）に評価が集中する結果になっている。また、評価基準の、7割以上、5割程度も、各議員の主観により、曖昧なものになってしまう。
- ◇ 評価方法の見直しを検討するべき時期だと思う。令和3・4年度の議会行動計画であげられていたものの議論が進まなかった、日本生産性本部による「地方議会評価モデル（地方議会の成熟度基準）」の導入について、検討してもらいたい。評価方法の見直しの検討の過程を通して、再度、議会のありたい姿を考え直し、ありたい姿から見た現在の柴田町議会の状態を確認することが出来ると思う。

《評価の内容について》

- ◇ 「柴田版政策サイクル」について
予算・決算審査において、議員間討議にワールドカフェを活用し、政策提言にまとめる、「柴田版政策サイクル」の仕組みが確立されたことは高く評価出来る。また、議会事務局職員がファシリテーターとなり議員間討議を行う手法も、全国の議

会の参考になる取り組みだ。今後は、データ、エビデンスに基いた、議員間討議を行い、政策提言の内容の質をあげることで、政策サイクルの更なるバージョンアップに努めて欲しい。

◇ 議会懇談会について

これまで、地域単位の一般懇談会、各種団体との団体懇談会、柴田高校の高校生との懇談会を開催してきたが、今後は、常任委員会の所管事務調査のテーマに合わせたの団体懇談会を増やす等、「政策サイクル」と議会懇談会をリンクさせた取り組みを期待したい。また、一般懇談会は、テーマを絞る等、執行部が行う住民懇談会との差別化が必要だ。

◇ 議会モニター制度について

導入に関して、議論が進んでいないことが非常に残念だ。議会モニター制度は、議会への住民参加、柴田町議会のファンの町民を増やす重要なツールだ。また、議会、議員への関心を増やすことにより、議員のなり手不足問題にも効果がある。まずは、芽室町議会、久慈市議会等、導入議会の状況を視察等で確認し、現状の柴田町議会にマッチした導入方法を検討してもらいたい。

◇ 第三者評価の行動計画への反映について

従来から、行動計画策定後に、アドバイザーの第三者評価が実施されているため、アドバイザーの評価が、どれだけその後の改革に活かされているかが、曖昧である。アドバイザーの評価を行動計画に反映させる仕組みを考えてもらいたい。

以上